

社団法人日本自閉症協会
奈良県支部ニュース

絆

きずな

第70号 12月号

購読料1部100円

(会員は会費に含まれています)



発行：社団法人日本自閉症協会 発行責任者：穴戸良朗
支部長&事務局：河村舟二 〒639-1055 大和郡山市矢田山町84-10
TEL&FAX 0743-55-2763

<http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

☆さあ！奈良の自閉症・発達支援センター設立にむけて支部の力を結集する時！

本部会報「いとしご」等でご承知の通り、平成15年度内に新たに7カ所の自閉症・発達障害支援センターが新設されます。

初年度および今回発足の所は、すでに自分の都道府県内に自閉症関係施設をもち、自閉症に特化した対処方法を持つところでは、先日おじゃました大阪府自閉症・発達支援センターをもつ萩の杜の松上施設長もこの点を強調され、これから立ち上げるところが大変だろうと言っておられました。また自閉症施策は厚生労働省案の予算だけでは賄えるものでは全くなく、今回のこの事業は窓口の事業であり、行政、自閉症協会、事業者、利用者のねっとワークづくり、しくみづくりがうまく機能するかどうか事業成功の秘訣であるとおっしゃっていました。

奈良県は設立条件的には厳しい所ですが、このセンターの必要性は全国一だと思います。これまでの自閉症に対する施策の遅れは、このセンターの運営如何で一気に払拭される、好機だと考えます。

早期に自閉症・発達障害支援センターを設立するには、奈良県にどんなかたちの自閉症・発達支援センターをつくるか。設立以降のプログラムはどうするか。などの案作りを急がなければなりません。

そのためには、まず当事者である自閉症児者本人・家族・会員のニーズ把握・ニーズ分析・仕組みづくりをする必要があります。会員の皆様には自分の子どもの5年、10年の将来の姿を見据えた支援ニーズや仕組み、これからの運動方針についての資料・知恵・意見を寄せていただきますようよろしくお願いいたします。

支部長 河村 舟二



自閉症児者の生活支援と 家族交流事業について

いよいよ 第5回目の講座まで進んできました！

さる11月30日、奈良県支部主催「自閉症児者の生活支援講座」に参加させていただきました。午前中山清司氏（横浜やまびこの里）、午後からは奥平俊六氏（ダダ父さん）という最高の講師からお話を聞くことができました。前回中山先生に来ていただいた時には、横浜でのグループホーム、ジョブコーチの現状をお話していただきました。今回は大人になった自閉症の人たちと支援というテーマでビデオを交えて年代別の課題と戦略をお話されました。戦略の字を見て新たに頑張ろうと思った私です。私事ですが、以前中山先生に自閉症の人たちの余暇研究会で指導を受けていたので余暇活動には力を入れていました。娘も15歳になり、卒業後の生活を考える時期になってきました。中山先生のお話を聞き、次に親は何をすべきか教えていただいたと思います。お忙しい先生なのですが子供の節目節目にはお会いしたいです。奥平俊六先生（ダダ父）からは「自閉症児が育つという事」―本人支援と地域支援―というテーマでお話していただきました。ダダ母さんとは対象的でソフトな話し方が心地よく、癒されているような感じがしました。内容についてですが、援助者としての親と教師の心構えを3つ上げられていて、その説明が素晴らしいと思ったので書きたいと思います。

1 自閉症の【障害特性】を知る

○正しい知識は本当のやさしさ

（う～ん、素晴らしい。子供の言うことを聞くのがやさしさではない。）

○高機能の人の辛さを聞いて、知的を伴う自閉症の人の辛さを知る。

知的障害の軽度に関わらず自閉症の人は同じ方向性の困難さを抱えている。

2 まず【便利な人】になる。

無理にお母さんらしく、お母さんであろうとするからしんどくなる。お母さんになる前に、コックさん、看護師さん、交通整理をする人とそれぞれの時の援助者になり、なくてはな

らない人になり、お母さんになったらいい。ダダ父は父親になる前にはイスだったらしい。

3 いつも【本人の立場】で考える

○わが子である前に 生徒である前に1個の人として尊重する。

○制御的な働きかけをしている間は、うまく育たない等。

たくさんいいお話があり簡単にまとめる事はできませんでした。講座に参加できなかった方はビデオを借りたりレジュメをもらって読んでください。お2人ともとても素晴らしい内容です。

最後まで読んでくださってありがとうございました。藤原栄子でした。

* 注 ビデオ収録について

今回奥平俊六先生のご希望で午後の講演はビデオ収録できませんでした。

申しわけありませんでした。お話の内容は、「ダダ父通信」も参考にしてください。奈良県支部の講演会保育は奥平さんのホームページをととても参考にしています。中山先生の講演も無理にお願いしてビデオ収録は許可してもらいましたが、会員だけで見てほしい事、ダビングは絶対にしないとの約束をして

いますのでご協力よろしくお願い致します。

事務局より



第5回講座アンケートから

◎どうしてこの講座に参加しようと思われましたか？

- ・いろいろ勉強させていただきたいから。
- ・二男が自閉症なので
- ・クラスに自閉症の子をもっていて、その子がより社会で生活する力をつけるための手立てをとりたくて（幼稚園）
- ・興味深いお二人のお話が聞けるので。
- ・自閉症の自分の息子が、余暇に何をしたいかわからない様なので、少しでも親の支援によって、有意義にすごせれば…と思ったので。（親）
- ・子どもが自閉症なので、父親にもっと育児参加をしてもらいたいと思って！
- ・昨年、自閉症の子を担任し、その子のお母さんから「光とともに」をおかりし読んでいました。本のあとがきなどで出てくるダダ母&ダダ父の講演の要項を目にし、「会いたい」「ききたい」と思い参加させていただきました。
- ・全コース申し込んでいます。パンフを送ってくださったので知りました。息子が小2で自閉症ですから勉強したいと思って。
- ・長男二男が二人とも自閉症で二人との関わりをより良いものにしたいので。
- ・3歳の息子が自閉症であるため。
- ・ダダ父通信の奥平さんが講演するので。
- ・二人の先生のファンだから。
- ・ダダ父母の大ファン
- ・理解を深めようと…
- ・息子（自閉症）の自立将来設計の参考にさせていただきたいと思います。
- ・近所だしダダ父さんに会いたかったのです。
- ・子供が自閉症的なので

○これまで講座に参加 する 19 ない 4
会報 インターネットホームページを見て、園に案内、学校園の先生を通じて、案内はがき 市療育通園施設でのお知らせで、「つなぐ」を見て（大阪支部）、友人から聞いて、学校に案内

◎自閉症の人とどんな関わりをお持ちですか？

教師 4

作業所、施設指導員、家族親族 18

その他 1

◎これまで、自閉症の人たちについて不思議に思われたり、困ったりしてきたことは？

- ・こだわり・今我が子が自閉症なのか ADHD なのか診断の途中です。12月中に診断がくだります。
- ・彼なりのこだわり（ずっと続いているものと新たにでてくるものがあります）について困ったりすることがあります。・どこまでが本当にできないことで、どこまでができることなのか、よく話もする子どものため、見極めがうまくできない。
- ・自分の子がそうなので、よく困ることがある（他害など）・自分の子どもが自閉症なのでたくさんあります。・給食で偏食があり苦手な物は絶対口にできなかった。→泣いても口に入れたり格闘の日々の後、全部食べるようになった。人権侵害 etc いわれていましたが？結果成功？したのですが、他に方法はあったのかなあと思いました。偏食指導はしないでともいわれていましたが、園で給食指導の中で残さず食べるようにしているので周りの幼児の手前どうしたらいいものか…うーん。・たくさんあります。現在も（小2親）
- ・長男はビデオやCMのセリフを一言一句間違ふことなくずっと繰り返し話していること。二男は喜怒哀楽が急に変わり泣き方が火がついたようなのに急にケラケラ笑い出したりすること（二人の自閉症児の親）
- ・息子のこだわりや不適切な行動
- ・こだわり・パニック・他動
- ・物に対するイメージがわからないのに、アニメキャラクターなどファンタジーの世界に入ると、いろいろ勝手にイメージし、空想して支配されていると思う。その点が不思議。（具体的には怒りの感情をファンタジーの世界で大きくして怒り出す。泣く。）健常の人でも何か行動する前に悪いイメージに支配されて自分はダメだと思ってしまいます。（自動思考）講演後、原因は私だと思いました。特性を理解した上でもう一度考えてみたい。（支部会員）

- ・コミュニケーションのとりにくさ。感じ方の違い。原因を知りたい。・電車の中でパニックになっているのを見たが、どうすることもできない。一人だった（本人 20 歳ぐらいの方）・自閉症の人達の支援にかかわるような仕事にはどんなものがある、どんな資格が必要なのか教えていただければ幸いです。・反抗期にさし掛かり、親、特に父親のいう事には反抗がきつくなってきました。どのように接し、導いてやるべきか考え直すよい機会になったと思います。・いっぱいあります。・急に行動が変わり、理解できなくなる（笑っていると思ったら泣いている）
- ・子供にこだわりがある（小さいときよりましになってきたが）（51 歳親）

▲そのことについて、納得できたり、解決の見通しがつきそうですか？

- ・以前よりは親として彼の世界について勉強させてもらい納得はできるようにはなっていると思いますが解決の見通しはついていません。
- ・悩みましたが、まず、子ども自身をもう一度ゼロから見つめ直してみようとおもいます。（幼稚園）
- ・” してはいけない ” ことは、断固としてだめを通してはいるけれども、次から次へと出てきて、解決とまでは、なかなかいけない。（親）
- ・少しずつですが学校の先生 Dr、同じ障害児の親の会の仲間たちの助けをかりてやっています。
- ・六歳と四歳ということで、なかなか解決しきれていないと思いますが、どういう場面でその行動を起こしやすいのか今以上に注意深く見てあげなければと思います。（二人の自閉症児の親）
- ・時間が解決してくれるだろうと思うことにしています。（私たち親が成長することによって）
- ・今日のお話を参考に頑張ります。
- ・まだ、行動が理解できない

◎今日の感想をお聞かせください。

- ・すばらしかったです。何より先生のお人柄が良かった。
- ・メールもしていないのでダダ父さんに会えてお話をきけて嬉しかったです。障害児の親として見習っていきたい。（会員）

- ・中山先生、奥平先生共に体験に基づいたお話をされていたので、とても参考になりました。もう一度自分を見直す良い機会になりました。（会員）
- ・とてもわかりやすい、いいお話でした。（養護）
- ・まだ 6 歳で小さいのであまり余暇というもの深く考えた事はなく、でも講演をお聞きして息子の 5 年後 10 年後とかを考えながらやっていく事の大切さを知りました。
- ・話を聞いていて、反省する部分たくさんありました。どの子も同じで、まず理解をし、その立場に立ってみることって必要ですね。参考になりました。ありがとうございました。（幼稚園）
- ・とても日常で役立つお話が聞け、また、親として耳の痛いお話もありました。役立てたいと思います（親）
- ・横浜のやまびこの里は以前から考え方が共感できていたので、直接、お話を聞かせて頂いてよかった。
- ・京都でダダ父ダダ母さんのお話を聞いて、また、お会いできて勉強になりました。
- ・施設・制度がきちんとないので、これから作っていかねば…田舎なもので何も無い。
- ・毎日、子供と接していて困ること、考えてしまうことはたくさんあります。でも、講演をきいてまた別の考え方もしてみようと思えましたし、ヒントをいただいたような気がします。とりあえず、今日は長時間（朝からずっと参加しましたので）息子と離れているので、かわいいと、すごく思えると思います。
- ・午前、午後ともわかりやすいお話ありがとうございました。
- ・まず、ダダ母さんでもでしたが、想像していたダダ父と違いびっくり！（勝手に想像してた）自閉症児も私達援助者も心地良い、生活の進め方がわかってきたように思います。また、次回があるのならば、もっと具体的な心地良い環境作りの仕方など教えてもらえれば、聞かせてもらえれば、と思います。今日はありがとうございました。（幼稚園）
- ・とても勉強になりました。中山氏のお話とても参考になりました。奥平氏のお話とても感銘を受け、また、親として子供の一番の支援者に、はたしてなっているのだろうか？療育はどこまでし

たらいいものかと考えさせられます。

・ご夫婦お二人のお話が両方聞けて共感できること、自分たち夫婦もそうでありたいと思う事が沢山ありました。お二人のように自閉症の子供達にとって私たち夫婦だけでなく理解者を一人でも増やしていき負担の少ない日常を送らせてあげたいと思います。

・非常にためになるお話ばかりで、参加して良かったなと感じています。お二人の先生とも強くて優しい方ですね。

・とても分かりやすくてよかったです。グループホームとかのビデオを見て生活の様子が分かってよかったです。いろいろな構造化で自閉症の方達が一生懸命に働く様子に感動しました。

・中山先生、久しぶりにお会いして、今、娘に対して何をしたらいいか教えていただきました。娘の節目節目にお話を聞きたいです。(支部会員)

・奥平さん、「やさしさの基本は正しい知識」ととても大切なことに気づかせて頂きました。子供の遊びの一つ一つに対してスゴイと思える奥平さんはスゴイ。勉強になりました。お二人の先生を通して感じたことはコツコツやっていくしかないと思いました。二人とも支援をやってこられた方だけあって話を聞いていてやさしさに包まれる感じがします。(支部会員)

・ダダ母の時と同じスライドだったので、残念だった。子供が同じ五年生です。最近のダダ君の様子や地域で理解してもらうために、やっておられることなど、聞きたかったです。(これからのこと中学に向けてなど)

・午前：息子は現在小学生で親の方も将来像が見えず不安がありますが、一つの参考になりました。午後：非常に分かり易いお話、かつ、目からウロコという気分です。自分の接し方を考え直すよい機会になりました。

・わかりやすく、とても参考になりました。

・私の子供に〇〇させなければ将来この子の為にという気持ちが強すぎたと思う。

◎今後このような講座ではどんな話を聞きたいですか？

・医療との連携や、コミュニケーション、兄弟へのサポートなどについて

・子どもたちと生活を楽しみ、いろいろな力をつけさせていく援助の方法です(幼稚園)

・どういう大人になっていくのか、いろいろ考えるきっかけとなるので、就労やグループホームについてはもっと聞きたいです。中山

・実践的な具体例を多く聞きたい。(ヒントになりそうだから)

・思春期の自閉症のことなどが今一番きがかります。

・支援グッズ作り実技を含んだもの

・年齢対象別の講座なども聞いてみたいです。幼児期、学童期、成人などそれぞれの職場で現在自閉症児をみておられる、身近な先生方など

・「光とともに」について戸部けいこさん

・自閉症の療育について橋本先生(東大阪市「はばたき園」勤務)

・パニックの対処法

・自閉症児の兄弟について

・性教育について

・親の気持ちに、親が求めていることに、即答できる先生を

・赤間公子「ユレーカ」

・福田年之 アサヒキャンプを通して自閉症児と関わってこられた方。福田さんや中山さんは自閉症児を愛していらっしゃると思うぐらい笑顔や気持ちが伝わる。

・地域で、子供を理解してもらうために、できること、やっている実践など。

・具体的な支援を指導してくださるかた。

・具体的な療育について聞きたい。

(新澤・坂井・内山・門・杉山登志郎)先生



療育部活動報告

キャンプに参加して

集合場所の天理駅にＪＲで行く事にしたのは良かったが、何時も車での移動ばかりで電車に乗る事が少なくなっていたので、オノポリサンよろしく切符を買うのも一苦勞、又ＪＲ奈良駅では桜井線への乗り換えにウロウロしている私に、時々立ち止まり・振り返って「僕についておいで！」と言わんばかりに前に行く息子の後を追いかけて行く私。子供の頃から主人とよく電車に乗ってアチコチ行き、このところは外出支援制度を利用しヘルパーさんとよく電車に乗っている息子に助けられての旅立ちとなりました。

（負うた子に教えられ・・・）

西名阪では２件の事故が重なったとかで大渋滞。何時着くかも分からない中で、誰もパニックにならず。大好きな乗り物に乗っている息子はあの大渋滞も苦にならない様子でした。

「いこいの村」は二度目のキャンプで、宿舎に入ってからボランティアの方と殆ど過ごしていたのですが、戸惑う事も無く振舞っていたようです。同じような体験を重ねていくと、その経験が多い分だけ本人も落ち着いて、情緒も安定しているということではないでしょうか。

（習うより慣れる）（失敗は成功のもと）

翌朝、心配していた寒さも無く予定どおりハイキング。腰を痛めていた私はバスに残って集合場所で待っているつもりでしたが、全員歩くことになってしまいました。案の定、急な坂道でダウン。途中で皆についていけず一人ぼっちになってしまい、行くも地獄・戻るも地獄のどうなる事かと不安でしたが、迷いながらも何とか皆の居る所にたどり着くことが出来ました。皆の顔を見た時、疲れが取れてむしろ久し振りに歩いた心地良さと満足感を覚えていました。

（なせばなる。なさねばならぬなにごと）

今回のキャンプは療育部との合同で、年齢の違う子供達と接していると、息子の子育てのいろんな事が走馬燈のように思い出されました。又、頑張っ

ておられる若いお母さん方に逆に刺激も受けました。「体験や経験をいっぱいさせてやる事で学び・成長していく」ことと信じ、今までやってきましたが、これから「親として、目先の事だけでなく、将来の事を考えて、何をしてやったら良いか」を考えねばと、自分より大きくなった息子の姿を見ながら「頑張らなくては！」と改めて思ったキャンプでした。いろいろとお世話くださった幹事さん・ボランティアの皆さん有難うございました。

成人部 王寺町一石川喜子

夏のキャンプに続いて参加させてもらいました。息子は、３日前から写真入りのスケジュール表をみてわくわくしている様子。前夜は大事な工作用具をリュックに入れて、彼なりに準備をしていました。荷物を枕元に置いて布団に入りましたが、なかなか寝つけず、期待の大きさを感じました。これだけ楽しみにしてくれるだけでも、参加する値打ちがあるなー。と母。キャンプでは

私の伝え方が足りず、納得出来なくてパニックになる場面もありましたが、お母さん達、先生方、学生さんたちに助けてもらって、宿泊を十分に楽しんでこれたと思います。天気に恵まれ、山々の紅葉も美しく、神野山の澄んだ空気を胸一杯吸い込んで、気持ちの良い２日間でした。実はちょっと疲れましたが、また参加したくなりそうです。息子も、そして母も。どうも ありがとう ございました。

療育部 上本 好樹・千佳子

翔太にとって初めてのキャンプということで団体行動はどうかかなと少し心配でした。また翔太だけをじっくりと見てあげられるいい機会だし、普段見過ごしている翔太を発見できるかもという期待もありましたが、いざ行ってみるといつもどおりだったなあ・・・という感じです。それが 翔太のいいところなのでしょう。キャンプの内容も、ゴーカートもすごく楽しみ、アスレチックもはしゃぎ、羊にせんべいもあげて とっても楽しそうでした。私も翔太とハイキングをして、ああ空がきれいなあとか 何年ぶりにゆっくりと歩いた気がします。いい笑顔するなあ、とうれしくなりました。また 来年も参加したいです。

療育部 神鳥 夕子

＊11月22日・23日と 成人部・療育部の合同参加（3歳～32歳）で集団指導キャンプを開催、無事修了いたしました。ボランティア参加の先生、学生さんたち、本当にありがとうございました。

会員紹介（療育部編）

神鳥翔大（しょうた）3才、父母妹（2才）の4人家族です。

妹が産まれた1才半ごろから何か違う気がすると思いながら2才になったら話し出すのでは、と待っていました。しかし、名前を呼んでも振り返らず、もしかしたら耳が聴こえていないのでは、と思いリハビリセンターで調べてもらいました。でも異常はなく、小児科を勧められ、そこで自閉症と診断されました。さんて郡山からめばえ学園を紹介され週2日で通い始め、今年4月から週5日行っています。最初は見るだけだった手遊びも今は楽しんでいるようで、まだまだやられている感がありますが、お弁当の時もきちんと座っているし、成長を感じます。（先生が歌の順番を変えてみた時は、手遊び歌の間中、泣いてましたが・・・）

来年は、幼稚園に行く予定ですが、加配の先生が週1日つけられるだけなので一学期間は一緒に通うように言われています。まだ発語がないので翔大のストレスが少なくしてあげたいとのことですが、やはり受け入れに不安があるようでまだまだ理解されていないんだなあと実感しました。

話せないだけに細かい要求が伝えられない、こちらもよく理解できない時が多いのでこれから、それを伝えられるようにさせてあげられたらと思います。毎日、楽しんで生活していけるように。最近、トーマスから電車好きになって、毎日乗りに行きたくなるみたいでちょっと困っています。そのうち私が定期を買わされるかも。こんな翔大と私たち家族をよろしくお願いします。

療育部からのお知らせ

1年というのはあっという間で 今年もうすぐ終わりですね。皆さんは、どんな1年でしたか？

ところで、来年1月に療育部恒例の新年会を行います。おいしい料理を食べながらいろんな話をし、楽しいひとときを過ごしませんか。

- 日時： 2004年1月20日（火）
AM11:00～PM1:00
- 場所： かに道楽 奈良本店
奈良市西九条5丁目2-9
電話0742-63-3232

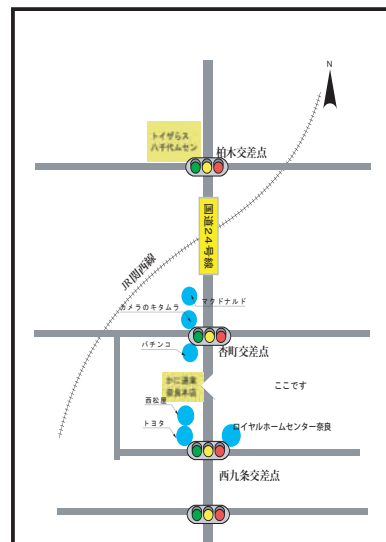
●参加費： 1000円

●申し込み締切 2004年1月9日（金）
連絡上の役員まで

※お子様連れで別に料理が必要な方（本人負担）

※現地集合、現地解散なので交通手段のない方は、役員までお知らせください。

皆さんの参加をお待ちしています。



県内の新たな動き

☆奈良県支部が自閉症児者の生活支援と家族交流事業として、2003年9月5日に、やまと郡山城ホールで取り組んだableの映画会が奈良県に新たな動きを巻き起こしているようです。以下の案内をいただきました。

「Able エイブル」上映会への協力を
スペシャルオリックス奈良準備会
『映画「able」は「知的障害」のある二人の青年が、

言葉も習慣も違うアメリカでのホームステイを通じて、それぞれの「可能性＝able」を広げ、周囲の人と信頼関係を作っていく冒険物語であり、とびぬけて明るく感動に満ちたドキュメンタリー作品です。「障害者はできないのではない。社会が彼らをできないと思って、できなくさせているのだ。」これはスペシャルオリンピックスの活動の創始者である、故ケネディ大統領の妹であるユニス・ケネディ・シュライバーの言葉です。』

多くの人たちにスペシャルオリンピックスの活動に参加していただきたいという思いで、私たちは「SO 奈良準備会」を発足させ、歩み始めたところです。先般、その最初の活動として、10月20日に細川佳代子スペシャルオリンピックス日本理事長から「スペシャルオリンピックスに参加しませんか!」と自らの体験を通してその理念や活動の実際について説明をいただき、スペシャルオリンピックスとのすてきな出会いの場となりました。奈良の地でも少しずつ活動の輪を広げていきたいという思いをさらに強くしました。

そこで、私たちの活動の原点となりました映画「able エイブル」の上映会を、下記のように開催することになりました。この映画を通して、ひとりでも多くの方に「知的障害者」に対する理解を深めていただき、スペシャルオリンピックスの活動へのご理解とご支援をお願いいたします。そして、「アスリート」「ファミリー」「ボランティア」として、この活動への参加を呼び掛けたいと考えております。つきましては、こうした趣旨をご理解いただき、勝手なお願いですが、チケット（協力券）の購入、販売について、ご協力をお願いいたします。

記

1. 日時 2004 年 1 月 25 日（日）
午前の部 11:00 ～ 12:40(10:30 開場)
午後の部 14:00 ～ 15:40(13:30 開場)
2. 場所 ならまちセンター
3. チケット（協力券） 500 円
前売り券（ピンク）
当日精算券（イエロー）

出来るだけ前売り券を購入いただければ幸いです。

以上

11 月 30 日講演会での保育報告

11 月 30 日の講演会、午後のみですが保育を行いました。

養護学校の先生方のご協力を頂いて、無事に終わることができました。

今回は 10 人以下と人数を限定させていただきました。

プログラムは天気が良ければ、近鉄電車で橿原神宮公園へお散歩を予定していました。雨の場合は近鉄百貨店でおやつを買うか電車でロッテリアへいくか・・・の選択をしてもらおうと用意していました。

当日はお天気が怪しい中、お天気プログラムを決行しました。

はじめての、お出かけプログラムで私も先生方もドキドキワクワクでした。

電車が好きな子も多いので、みんなモチベーションは上々でしたが、なかなか動けなくて、電車に乗れない子もいました。おやつを構内のコンビニで買いましたがおやつはいらないと、買わない子もおり・・・。

本当にみんな、それぞれの過ごし方でしたが、先生方は 1 人 1 人に合わせた対応をしてくださって、心強かったです。子供たちそれぞれ、楽しんでくれたことでしょう。

なにより事故や怪我もなく、先生方に感謝です。ありがとうございました！

（あっ・それと近鉄橿原神宮駅の駅員さん・・・みんなに電車のかっこいいパンフそーっとくださってありがとう!!!）

療育部 保育担当 田中 康子



事務局から

◎前回の絆で今年度の会費未納の知らせを同封しました方々の中に、総会時または振込で、すでに払い込み済みであるにもかかわらず、なぜ督促されるのかとのお叱りを数件いただきました。事務局の連絡が不十分であったため、ご迷惑をおかけしました。申し訳ございません。役員会でもう一度会費徴収方法について話し合いたいと思いま

す。 事務局（河村）

☆『自閉症児が育つということ』

／高槻市生涯学習センター

主催・企画

自閉症の人のバリアフリーを考える親の会

はぐくみ

テーマ 『自閉症児が育つということ』

講師 大阪大学大学院教授 奥平 俊六 氏

日時 2003年12月15日（月）

9:30～11:30

会場 高槻市生涯学習センター

多目的ホール2階

J R 高槻・阪急高槻市駅から徒歩約8分

（高槻市桃園町2-1）

<http://www.city.takatsuki.osaka.jp/db/kurasu/db4-gakusyu.html>

参加費 1,000円（資料代込）

事前申し込みはありません。

当日会場で受付致します。

（先着300名。託児は行いませんのでご了承ください。）

後援 高槻市教育委員会

問い合わせ

自閉症の人のバリアフリーを考える親の会

はぐくみ

TEL:

090-9982-5024

（10:00～15:00）

E-MAIL: hagukumi2003@yahoo.co.jp

HP: <http://www.h6.dion.ne.jp/~hagukumi/>

★自閉症や知的障害のある人とのコミュニケーション支援の視点を変える

主催：社会福祉法人わたぼうしの会

たんぼぼ生活支援センター

講師：坂井 聡さん（香川大学教育学部附属養護学校教諭、言語聴覚士）

とき：2003年12月20日（土）10:00～12:00

ところ：奈良市男女共同参画センター

あすなら大会議室

JR 奈良駅西側（三井ガーデンホテル2階）

TEL 0742-34-1525

参加費：500円 定員：70名

対象：自閉症や知的障害のある人とのコミュニケーションを考えたい人

申し込み：申込書を郵送か FAX

定員になったら締め切ります。

問い合わせ・申し込み：たんぼぼ生活支援センター

〒630-8044 奈良市六条西3-25-4

TEL: 0742-40-1030 FAX: 0742-49-5523

e-mail

genki@popo.or.jp

申込書様式：

自閉症や知的障害のある人とのコミュニケーション申込書／FAX: 0742-49-5523

お名前 所属

ご住所 〒

TEL fax E-MAIL



☆厚生労働科学研究

主任研究者 石井 哲夫

「高機能広汎性発達障害の社会的不適応とその対応に関する研究」平成15年度研究発表会開催のご案内

◎定員満杯締め切り済み

・石井哲夫（日本自閉症協会会長・白梅学園短期大学）

・山崎晃資（日本自閉症協会理事・東海大学）

・太田昌孝（日本自閉症協会理事・東京学芸大学）

・須田初枝（日本自閉症協会副会長・けやきの郷）

・栗田廣（東京大学）

・白瀧貞昭（武庫川女子大学）

・杉山登志郎（あいち小児保健医療総合センター）

・清水康夫（横浜市総合リハビリテーションセンター）

・辻井正次（中京大学）

【申込み・問い合わせ先】

社団法人日本自閉症協会 事務局 山本宛

〒162-0051 東京都新宿区西早稲田2-2-8

TEL 03-3232-6478 Fax 03-5273-8438

E-mail asj@mub.biglobe.ne.jp

☆第10回奈良 YMCA LD 児理解講座

LD 児及び周辺児への関わり方

日時：2004年1月18日（日）10:30～15:30

会場：奈良県文化会館小ホール 奈良市登大路町
講師：

○竹田 契一「これからの特別支援教育とLD・ADHD指導」10:30～

○金 泰子「保護者の障害受容」13:30～
定員 250 名（託児なし）参加費 1000 円
申し込みTEL予約 0742-44-2291

★自閉症支援スタッフ養成研修

京都 NPO 法人 "生活支援センターあすく" 主催

★基礎講座 自閉症への支援

日時：2004 年 1 月 12 日（月・祝）

10：00～17：00

場 所：ハートピア京都 大会議室

内 容

- ・TEACCH プログラムの理念と概要
- ・自閉症の特性
- ・評価と構造化
- ・現場での取り組み（事例発表）

講 師：中山 清司（横浜やまびこの里）

村松 陽子（京都市児童福祉センター）

参加費：3,000 円（当日徴収）

定 員：200 人（先着順 事前にお申し込みください。）

TEL 075 - 813 - 5141

FAX 075 - 813 - 5142

★自閉症支援スタッフ実習トレーニング

日 時：2004 年

○1 月 17 日（土）9：00～17：00

○1 月 18 日（日）9：00～16：45

場 所：京都社会福祉会館

講師・トレーナー

中山 清司（横浜やまびこの里）

高橋亜希子（北摂杉の子会 萩の社）

村松 陽子（京都市児童福祉センター）

重松 孝治（藤井寺養護学校）

参加費 30,000 円、定員 18 人

・参加される人は「基礎講座自閉症への支援」の受講が必須となっています。

・希望者多数の場合は、選考させていただきますので、ご了承ください。

・1 月 12 日の基礎講座終了後、研修ガイダンス

がありますので、必ずご参加ください。

問い合わせ先 工房あすく

TEL 075 - 813 - 5141

FAX 075 - 813 - 5142

★自閉症の就労支援セミナー

【主 催】社団法人日本自閉症協会京都府支部、
NPO 法人生活支援センターあすく

【後 援（申請予定）】

京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都新聞社会福祉事業団、
京都府社会福祉協議会、京都知的障害者福祉施設協議会、京都障害児者親の会協議会

【日 時】2004 年 3 月 21 日（日）13：30～
17：00（受付 13:00～）

【プログラム（予定）】

講演：『福祉と企業のコラボレーション』（課題）

講師：樋口 幸雄 氏

社会福祉法人京都ライフサポート協会 横手通り
43 番地「鹿」施設長）

パネルディスカッション：

『障害者の就労への架け橋』～企業側の期待と学
校・福祉の取り組みについて考える～（課題）

コーディネーター：

櫻井基生氏（小規模作業所 "七"）

パネラー： 小川忠弘氏（（株）日清医療食品近
畿支店）

樋口幸雄氏（社会福祉法人京都ライフサポート協
会）

＊あと 1 名学校関係者を予定しています

【会 場】ハートピア京都（京都府立総合社会福
祉会館）大会議室 京都市中京区竹屋町烏丸通東
入。地下鉄烏丸線「丸太町駅」下車⑤番出口

【参加費】 一般参加：2000 円 日本自閉症協
会京都府支部一協力会見：1500 円

正会員：無料

【お問い合わせ】京都府支部事務局（担当：宮内）
TEL：075-813-5156（月、水、金 AM10:00～
PM3:00）075-631-1049（上記以外）

★ TEACCH カンファレンス イン大阪

TEACCH プログラム研究会 15 周年記念事業

日時：2004 年 2 月 7 日（土）～8 日（日）

会場：大阪郵便貯金ホール（メルパルクホール）

講師：ゲリー・B. メジボフ博士（ノースカロライナ大学チャペルヒル校 TEACCH 部部長）
キヤサリン・フェハティ先生（アッシュビル TEACCH センター教育心理士）

主催：TEACCH プログラム研究会

後援：厚生労働省、社団法人日本自閉症協会、朝日新聞厚生文化事業、大阪府、大阪市、近畿地区知的障害者施設協会

●プログラム

2月7日（土）

8：30 受付開始

9：00 開会式 TEACCH プログラム研究会会長
あいさつ 寺尾孝士

来賓ごあいさつ 厚生労働省 障害福祉専門官
大塚 晃氏

日本自閉症協会会長 石井哲夫氏

TEACCH プログラム研究会顧問あいさつ 佐々木
正美氏

10：00 講演 ゲリー・B. メジボフ先生
「TEACCH プログラムの現在と共有してきた価値
体系（コア・バリュー）」

11：15 休憩

11：30 講演 メジボフ先生（つづき）

12：30 昼食休憩

13：30 講演 キヤサリン・フェハティ先生「高
機能自閉症の人への支援」

14：45 休憩

15：00 講演 フェハティ先生（つづき）

16：15 質疑応答

17：00 一日目終了

18：00 懇親会（メルパルクおおさか宴会場に
て一希望者対象）

2月8日（日）

8：30 受付開始

9：00 実践報告：幼児・学齢期における実践
4題の報告、1題に付き発表30分、コメント・
討議15分

コメンテーター フェハティ先生

12：20 昼食休憩

13：00 TEACCH プログラム研究会総会

13：20 実践報告：青年・成人期における実践
4題の報告、1題に付き発表30分、コメント・
討議15分

コメンテーター メジボフ先生

16：40 開会式 TEACCH プログラム研究会常
任理事あいさつ 藤岡 宏

来賓ごあいさつ 文部科学省 特別支援教育課
石塚謙二氏

17：00 終了

★参加費

TEACCH プログラム研究会会員 8,000 円

その他 10,000 円

懇親会 6,000 円（定員 200）。お弁当 1,000 円

★申し込み用紙を FAX か郵送する。（用紙事務局
に有り）

入金確認をもって正式参加申し込みとする。

口座番号郵便振替 00950-6-247411 口座名称
TEACCH カンファレンス

★参加定員 1,000 名になりしだい締め切り

申し込み・問い合わせ先 土倉事務所
〒603-8148 京都市北区小山西花池町 1-8

「TEACCH カンファレンスイン大阪」係 TEL
075-451-4844 FAX 075-441-0436

最初に戻る

☆協会誌「いとしご」に添付されている指導誌新
名称投票用紙を必ずお出しください。奈良県支部
から何人回答があったか分かるようになっていま
す。

☆日本評論社から『こころの科学』特集号として
「育ちの科学」が増刊されました第1回が「自閉
症とともに生きる」で事務局に見本一冊送られて
きました。第2号が子どもの虐待へのケアと支援
第3号「アスペルガー障害」の予定本体 1333 円
＋税（最寄りの書店で）

編集後記

早いものでもう年末あつという間の1年でし
た。与謝野晶子の「君死にたまふことなかれ」
を読んでこんな思いを二度としたくないのにと
感じました。

支部ニュースについての感想、ご意見等があり
ましたら、穴戸（0742-49-3855）までか、また
は、最寄りの支部役員までお願いします。